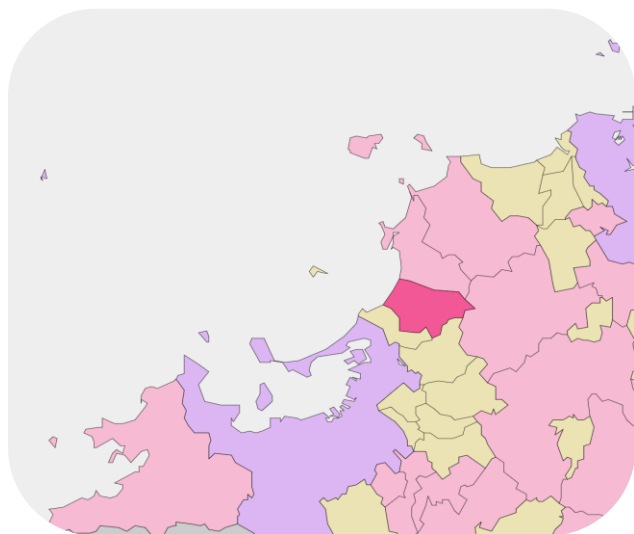


古賀市認知症サポーター養成講座の 取組について



実例報告② 報告者：福岡県古賀市

古賀市の基本情報

※令和3年10月末現在

総人口：59,513人

65歳以上人口：16,258人

高齢化率：27.32%

認定率：12.9%

第1号保険料月額：5,100円



古賀市認知症サポーター養成講座 実績

- 市内小・中学生
- 古賀市職員
- 民生委員
- 地域住民
- 糟屋北部消防署職員
- 小・中学校教員
- 看護学生
- シルバー人材センター
- 郵便局員
- ショッピングセンター店員 ・ ・ ・ etc



計 9,744人

※令和3年3月末現在

古賀市キャラバンメイト連絡会「橙」

サポーター養成講座の講師役である『キャラバンメイト』

➡ 古賀市では平成21年3月に初めて誕生

その後、認知症になっても住みやすい古賀市をめざして、市民自らの手でサポーターを増やしていこうと、

古賀市キャラバンメイト連絡会「橙」を設立（平成21年10月）

<3つの意味>

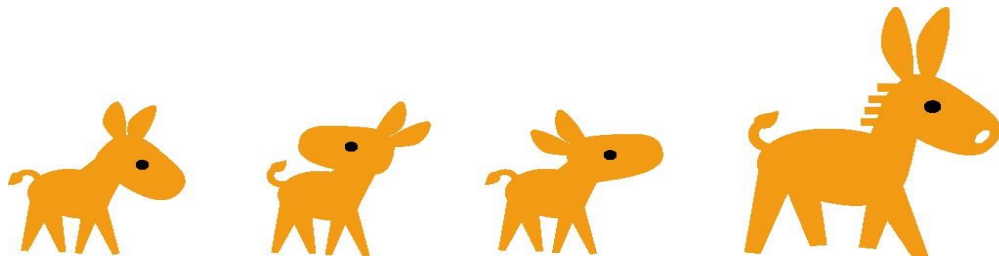
- 認知症サポーターのシンボルカラー
- 橙の木は古い実と新しい実が一緒に生るという特徴がある
→ 高齢者と若い人が支え合って一緒に暮らしていけるように。
- 「橙」の活動が「代々」続きますように、という願い。



古賀市キャラバンメイト連絡会「橙」

『橙』では現在、100人のキャラバンメイトが活動

構成メンバーは ボランティアスタッフ
民生委員
介護・医療従事者
行政関係者など



認知症サポーター養成講座の課題と目標

〈平成23年当時の課題〉

- ・ 受講者の幅を広げたい
- ・ 子どもたちが認知症について学ぶことができないか
→ ある出来事がきっかけに



認知症になっても安心して暮らせるまちになるために、
子どもたちにもサポーターの一員になってもらいたい。

- ・ 小中学生向け講座を開催したいが、どうやって進めるか・・・。

小学生向け講座の開催に向けて

＜内容の吟味＞

- ・ 大人向けの講座と同じ内容ではなく、
子どもが理解しやすく、興味を持って聞ける内容を



「**橙**」の中で、有志を募り『**ネーブルの会**』を立ち上げ、
小学生向け講座の内容の検討を開始。（平成23年9月）

- ・ 小中学生向け講座を県内では先駆的に行っていた大牟田市への視察

平成23年1月 大牟田市大正小学校 視察

2月 大牟田市延命中学校 視察

大牟田市での子ども対象認知症サポーター養成講座に参加

小学生向け講座の開催に向けて

＜教育委員会・学校との調整＞

- 事務局が橋渡しの役割を担って、必要性や内容の説明を重ねた。

平成22年11月 ・校長会にて目的説明

平成23年 5月 ・児童生徒支援担当教諭を対象にサポーター養成講座

10～11月 ・人権教育副読本「いのちのノート」掲載の資料作成

12月 ・市内の特別養護老人ホームにてジュニアサポーター養成講座開催
(市内1校の6年生を対象に)

・資料内容の見直し・再検討

認知症ジュニアサポーター養成講座 「オレンジ教室」

➡ 小学生向け講座を『オレンジ教室』と名付け、人権教育の一環として、独自の教材を用いて、平成24年度より古賀市全8校で開催

- ・対象学年：5年生
- ・講座時間：90分（授業2時間分）

講座開催にあたって、参加するメイトで事前打ち合わせも実施



小学生向け教材 「いのちのノート」

人権副読本 5・6年用

いのちのノート



東中校区小学校用(小学校)

5年 組 (名前)

6年 組

人権教育副読本 もくじ

青柳小学校・小野小学校 高学年版

観 点	使用する教材・資料	ページ
人権・同和問題	5「ほくにもできたよ」(ぬくもり)	1
	6「こころって どこにあるの」(とんとん)	2～4
	6「お茶くみ当番」(かがやき)	5
	6「みんなそうしてる」(かがやき)	6
	6「教科書を無償にする運動」	7
	6「歴史をふりかえって」	8～9
	5「人の値打ち」	10～11
外国人の人権問題	5「サイフ」(かがやき)	12
	6「あきらの韓国平和の旅」(かがやき)	13
平和教育	5「福岡大空襲の体験談」	14～18
	6「何故、ヒロシマを訴えるのか」(東中 人権の世紀)	20～21
障がい者の人権問題	5「花」(星野富弘)	22～23
生と性	5「ちがいのちがい」(わたし出会い発見)	24～27
	5「女らしさ男らしさについて」(いのちありがとう)	28～30
	6「女の子はジーパンをはけるのに、男の子はなぜスカートはいけないの」(じえんだあ・ふりいBOX)	32～35
仕事	6「はたらく」(かがやき)	36
HIV	6「ハンセン病を正しく理解しよう」(福岡県パンフレット)	38～39
子どもの人権	5「子どもけんカルタ」(古賀市)	40～42
その他	5「物事のB面に目をむけよう」(朝日新聞 オーバービジット)	44～45
	5「認知症ジュニアサポーターになろう！」	46～48
	6「東日本大震災について学ぼう」	49
	5「インターネットの掲示板」	50～52



小学生向け教材

「いのちのノート」

にんちしょう 認知症ジュニアサポーターになろう！

1. 年をとるってどういうこと？

思いつくイメージを書いてみよう！

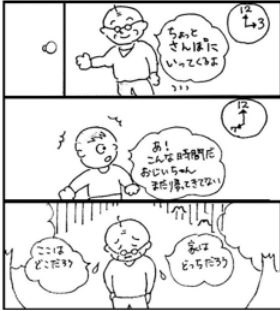


2. 『認知症』という病気を知ろう！

「ごはんを食べたかな？」



「迷子になっちゃった」



このマンガを見て、どう思ったかな？

にんちしょう 「認知症」てなあに？

大人になってから起こる、『認知の力』の低下によって、普通の生活を送ることが難しくなってしまう脳の病気のことです。

『認知の力』とは、コンピューターのような役割を持つ脳の働きによって生み出される力のことで、生活の中で困らないように考える力のことです。

わたしたちは、学校に遅れないよう準備をして、車に気をつけながら学校に行くためには、『何時だかわかる』『何を準備するかわかる』『道路を渡っていいかわかる』『学校への道がわかる』といった、たくさんの『認知の力』が必要になります。

『認知症』になると、物忘れをしたり、時間がわからなくなったり、道に迷ったりするようになります。

健康な人と認知症の人の脳の違いって何だろう？

記憶のつづ
△⇒未来
□⇒現在
●⇒過去

《健康な脳》



《認知症の脳》



小学生向け教材 「いのちのノート」

げき
劇を見て、みんなで考えよう！

① 認知症にんちしょうになった人はどんな気持ち？

自分に置き換えて考えてみよう。

② みんなの大切な人にんちしょうが認知症になったら、

わたしたちは何ができるでしょう。

3. 『認知症にんちしょうジュニアサポーター』ってなあに？

みんなが困っている人を見たときに、少し勇気をもって、声をかけて手助けができたらきつとお互いにたがいあたたかい気持ちになれると思います。

このサポーターとは、特別なことをするわけではありません。

オレンジ教室を通して、認知症にんちしょうのことを正しく知って感じた、『相手を思いやる気持ち』や『その大切さ』を家族や兄弟などに伝えてください。

そして、地域でも認知症にんちしょうで困っている人の見守り隊の一人になってください。



☆ジュニアサポーターのみんなへ☆
～伝えたい3つのメッセージ～

- ① 認知症という言葉でお友達を傷つけない
- ② お年寄りをみかけたら、あいさつしてみよう
- ③ おうちの人と認知症について話してみよう



みんなに配ったこの輪は、『オレンジリング』といます。
認知症ジュニアサポーターのしるしとして大事にしてください。

☆ジュニアサポーターのみんなへ☆
～伝えたい3つのメッセージ～



- ① 認知症にんちしょうという言葉でお友達を傷つけない
- ② お年寄りをみかけたら、あいさつしてみよう
- ③ おうちの人と認知症について話してみよう

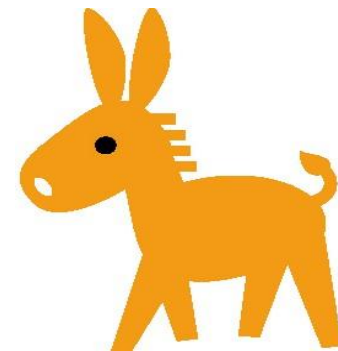
オレンジ教室で伝えたいこと

- 人生の先輩である高齢者を敬う気持ちを育てる
- 認知症の人への支援のあり方を通して、困っている人がいたら気にかけて支援できる思いやりの心を育てる
- 認知症という病気や認知症の人のことを正しく理解する
- 子どもたちも、ともに助け合い、支えあう地域の一員であることを学ぶ

オレンジ教室から中学生向け講座へ

市内全小学校での開催を継続し、「オレンジ教室」のフォローアップ講座として、平成27年度より中学生向け講座を開始。現在は市内3中学校全校（1年生）で開催している。

中学校での開催時、オレンジ教室のことを覚えている子もいる。中学校での再学習を行うことで、小学生の時よりも深い理解を促し、親・兄弟に学んだ内容を伝え、家族間で話題にして貰うよう働きかけている。



三位一体の取組

古賀市役所（行政）、教育委員会（学校教育）、古賀市キャラバン・メイト連絡会「橙」（民間）が三位一体となって実施。
そこには三者の熱意と相互理解がある。

平成30年度 日本認知症ケア学会
読売認知症ケア賞 実践ケア賞

令和元年度 九州厚生局
認知症施策総合事業部門
市町村の部 部門賞



コロナ禍での取組

〈令和2年度、3年度〉

“コロナ禍であっても認知症に関する学びを継続したい”
行政と学校、キャラバン・メイト連絡会「橙」で検討

市内全小学校での開催方法

- ①講座時間の短縮（90分から60分へ）
- ②テキストの変更（簡易版資料）
- ③配布物の変更（オレンジリング中止）
- ④体育館から各教室での実施へ



コロナ禍での取組

市内中学校での開催方法（予定） ※令和2年度は中止

（従来）生徒全員を体育館に集めて実施

（変更）会議室から各教室へオンライン配信

各教室にファシリテーターとしてキャラバン・メイト
「橙」スタッフが配置

講座時間：100分

講座内容：講義（配信）

ロールプレイ（動画）



今後の展望

〈認知症施策の課題〉

- ・ 認知症サポーター活動促進・地域づくり推進
認知症サポーター養成講座+ステップアップ講座
- ・ ステップアップ講座を受講した認知症サポーター等によるチームオレンジの組織化
古賀市キャラバン・メイト連絡会「橙」との連携



「共生」の地域づくりを推進

今後の展望

〈重層的支援体制整備事業に向けた取組〉

「重層的支援体制整備事業への移行準備事業」（令和3年度から実施）

（主な取組内容）

- ①多機関協働の取組
- ②アウトリーチ等を通じた継続的支援の取組
- ③参加支援の取組 →CSW業務委託（社協）

地域における要介護高齢者（単身、認知症）の増加、8050問題など複雑化・多様化した課題を抱えるケースに対し、CSWを通して行政等の多機関につなぎ、地域とともに解決にあたる。



誰もが住み慣れた地域で安心して暮らすことができる地域共生社会の実現へ

地域共生社会の実現に向けて

誰もが住み慣れた地域で安心して心豊かに暮らし続けることができるまちづくり

こまったときはお互いさま、たより合えるまち

《古賀市地域福祉計画 基本理念》

ご清聴ありがとうございました

